

2026 年度
聖徳学園中学校 適性検査（共通 2 科型）
適性検査 I・II 解答例と解説

この解答例と解説はあくまでも採点の一例を示したものです。

本校にお問い合わせいただきましても、個別の採点内容等につきましては、
お答えできません。あらかじめご了承ください。

適性検査Ⅰ〈共通2科型〉解答例／解説

文章1

出典は、下重暁子『若者よ、猛省しなさい』による。NHKのアナウンサーとして活躍後、公益財団法人の会長などを歴任し、文筆活動に入った著者が、挫折をどう乗り越えるかについて述べた文章である。挫折したときには心のケアが必要だと述べたあとで、自分の経験をふまえて諦めないことの大切さを訴え、自分の才能を信じて諦めずに自分の好きなことを追求していれば、いつか道が開けると述べている。挫折を乗り越えて成長することについて筆者の考えを理解していきたい。

文章2

出典は、川端裕人『風のダンデライオン 銀河のワールドカップガールズ』による。同著者による『銀河のワールドカップ』の前の話で、所属していた女子サッカーチームが解散したことで行き場を失った小学五年生の高遠エリカが、同じくチームをなくしてコーチを探しているツバサと練習していたときに大人の女子サッカー選手・ミサキと知り合う。なかなかチームは見つからないが、エリカもツバサも諦めない。そんな二人がミサキとの出会いを通して新たな視点を得て夢を追い求める様子をとらえていきたい。

〔問題1〕

解答

ア 文学や芸術 イ 才能

【解説】

ア 「心を支えてくれるもの」とはどのようなものかを考える。「挫折」は「心の挫折」だから、「心のケア」が必要で、それには「文学や芸術が欠かせない」と述べられている。つまり、「心を支えてくれるもの」は「文学や芸術」である。

イ 後半の『『諦めること』はして欲しくない』に着目。筆者は、挫折したとしてもただ「自分の才能が首をすくめているだけかもしれない」「少し休めば」また進み出せると考えている。だから、挫折したからといって早々と「自分に見切りをつけて欲しくない」と訴えている。「うまくゆかぬ要素」は、「社会環境や時代のせい」ということもあるのだから、「自分だけは自分の才能を信じてやりたい」というのである。

〔問題2〕

解答例

ウ 断られること(六字)

エ 自分たちでチームを作る(十一字)

【解説】

ウ ツバサが「ぼく、今、チームがないんです」と言うのを聞いて、エリカも「あたしだって、チームがほしい!」と叫びそうになるほど強く思っている。しかし、「きつと断られると思ったから」その願いを口に出せずにおり、エリカのそういう態度を「臆病」と表現している。

エ エリカは「チームがほしい」と思っており、自分が入るのにちょうどいいチームがないか探している。そんなエリカにミサキは「自分たちでチームを作ればいい」と助言している。自分たちでチームを作るという発想はエリカにはなかったもので、「頭を殴られたみたいな衝撃を受けた」のである。今後につながるヒントを得て、目が開かれる思いがしている。

〔問題3〕

解答例

解答省略

【解説】

まずは問題と条件をよく読んで、作文のテーマと文章から読み取ることが整理することが大切である。条件が合わない、減点につながってしまうので気をつけたい。まず、条件①として、**文章1・文章2**の内容をふまえてまとめることが必要である。**文章1・文章2**

に共通しているのは、諦めないで自分のやりたいことを追い求める姿勢である。条件②には「経験」があるときは一つにしばって書くこととあるので、具体的な挫折の経験を一つ挙げて、それを乗り越えた方法についてまとめること。その際、「諦めないこと」と関連させることが大切である。「経験」がないときは、挫折した場合にどのように対処しようと思うかを書く。条件③の段落分けも気をつけたい。

適性検査Ⅱ

1

〔問題 1〕

〔スタート地点から 3 か所のチェック地点をまわってゴール地点へ行く行き方〕

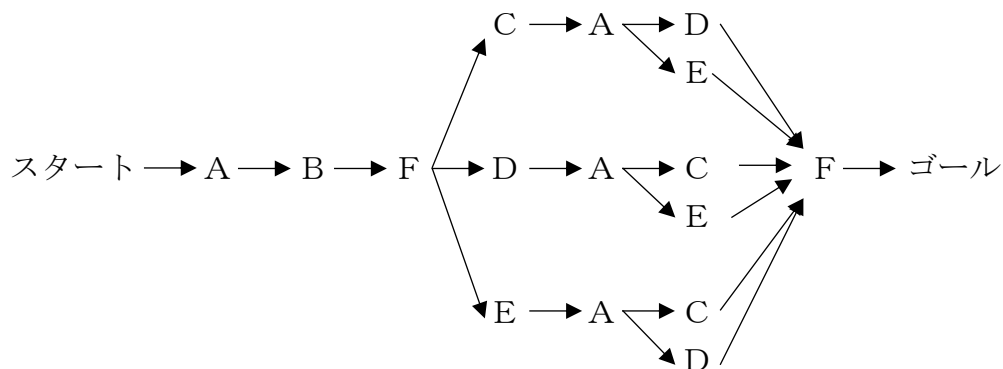
(24) 通り

〔すべてのチェック地点をまわってゴール地点へ行くことができない理由〕

すべてのチェック地点に行くと必ず A 地点にもどってしまうので、そのあと同じ道を通らないと F 地点に行くことができず、ゴール地点にも向かうことができないから。

【解 説】

スタート地点から 3 か所のチェック地点をまわってゴール地点へ行く行き方のうち、最初に B 地点をまわる行き方を図に表すと、次のように 6 通りあります。よって、最初にまわるチェック地点が C 地点、D 地点、E 地点の場合も同じように 6 通りずつあるので、全部で、 $6 \times 4 = 24$ (通り) です。



〔問題 2〕

〔スタート地点を出発してからゴール地点に着くまでにかかる時間〕

(50) 分

〔チェック地点を通る順番〕〔(記入例) スタートA→B→F→ゴール〕

スタート→A→C→A→B→A→D→F→E→F→ゴール

〔時間を求める式〕

ゴール地点まで歩くときの道のりの合計は、

$$600+180+180+420+420+240+120+360+360+120=3000(\text{m})$$

よって、ゴール地点に着くまでにかかる時間は、最も短い場合、

$$3000 \div 60 = 50(\text{分})$$

【解 説】

できるだけ道のりが短い道を通る行き方を考えます。はじめにC地点を通ったあとはF地点に向かうよりA地点にもどるほうが道のりが短いので、A地点にもどります。また、D地点とE地点については、A地点からD地点を通ったあと、A地点にもどらず、F地点を通してE地点に向かうと道のりが短く、その後A地点に向かうのではなく、F地点にもどるほうが道のりが短いので、ゴールに向かう直前にD地点とE地点を通ることとします。よって、C地点からA地点にもどったあとはB地点に向かい、またA地点にもどったあとにD地点、E地点に向かいゴールに向かう行き方が、通る道のりの長さの合計が最も短くなります。

2

〔問題 1〕

(1) (選んだ一つを○で囲みなさい。)		
石炭	石油	天然ガス
407	(億 kWh)	3463 (億 kWh)
〈選んだ原料の発電量〉		3147 億 kWh
(2)		
1960 年までは水力発電が中心だったが、その後は火力発電が中心となり、1980		
年以降は原子力や新エネルギーも加わった。		

【解 説】

(1)

図 1 から、総発電電力量は、1 0 1 8 6 億 kWh であることが読み取れます。このうち、石炭・石油・天然ガスのそれぞれの原料による発電電力量を計算します。

石炭は $1\,018.6 \text{ 億 kWh} \times 0.309 = 314.7474$ となり、小数第一位を四捨五入して 314.7 億 kWh となります。

石油は $1\,018.6 \text{ 億 kWh} \times 0.04 = 40.744$ となり、小数第一位を四捨五入して 40.7 億 kWh となります。

天然ガスは $1\,018.6 \text{ 億 kWh} \times 0.34 = 346.324$ となり、小数第一位を四捨五入して 346.3 億 kWh となります。

(2)

図 3 からは、水力発電の割合が減っていることや、火力発電の割合が増えていること、1970 年から原子力発電の割合が増え始め、2020 年には東日本大震災の影響を受けて割合が減っていること、新エネルギーの割合が1980 年から徐々に増えてきていることなどが読み取れます。

〔問題 2〕

〈共通点〉 火力発電と原子力発電共に原料を輸入する必要があるため、港に近いところに発電所を設置することで輸送費等のコストを削減できる。
〈異なる点〉 火力発電所は電力の大消費地である大都市や工業地帯（地域）が沿岸部にあるためその近くに立地しているが、原子力発電所は原子炉を冷却する際に海水を利用するため沿岸部に立地している。

【解 説】

会話文から火力発電に必要な石炭・石油・天然ガスはほとんどを外国からの輸入に頼っています。また、原子力発電の原料となるウランもすべて外国からの輸入に頼っていることが分かります。そのため、原料の輸入に便利な沿岸部に発電所がつくられています。

図 4 から、火力発電所は東京や名古屋、大阪など大都市の沿岸部に立地していることが分かります。

図 5 と先生の説明から、原子力発電では、原子炉を冷却する際に大量の水が必要であり、この水として海水を確保するために沿岸部に立地していることが分かります。また、原子力発電は、万が一の事故に備えて大都市を離れた地域に立地しています。

(選んだ一つを○で囲みなさい。)

カード1

カード2

カード1 温室効果ガスの排出が少ない再生可能エネルギーを優先的に使うことで
火力発電による二酸化炭素などの排出をおさえ、地球温暖化が進まないよ
うにする。

カード2 従来より発電効率のよいコンバインドサイクル発電を取り入れること
で、発電量に対する化石燃料の使用量を減らすことができるため、その
結果、二酸化炭素などの排出をおさえ、地球温暖化が進まないようにする。

【解 説】

カード1から、スマートグリッドではどの発電方式で生み出された電気を優先的に使うかを選択することができるとあります。温室効果ガスの一部である二酸化炭素を多く排出する火力発電ではなく、環境にやさしい新エネルギーによって発電された電気を優先的に使うことで、二酸化炭素排出量を減らすことができます。

カード2と会話文から、コンバインドサイクル発電は、より少ない化石燃料で多くの発電をすることができることが読み取れます。化石燃料を使用するとしても、この方法で発電すれば、化石燃料を使用する量を減らすことにつながるので、その結果、二酸化炭素排出量を減らすことができます。

3

〔問題 1〕

最もあわ立ちが良いときの全体の体積（液体ハンドソープの体積＋水の体積）に対する液体ハンドソープの体積の割合（％）		
	60	％
最もあわ立ちが良いときの割合で全体の体積が200 mLになるようにするときの、液体ハンドソープと水の量		
液体ハンドソープ	120	mL
水	80	mL

【解 説】

表1から、あわの高さが最も高くなったのは液体ハンドソープの体積が90 mL、水の体積が60 mLのときとわかります。全体の体積（液体ハンドソープの体積＋水の体積）に対する液体ハンドソープの体積の割合（％）は、 $90 \div (90 + 60) \times 100 = 60$ （％）となります。また、最もあわ立ちが良いときの割合で全体の体積が200 mLになるようにするには、全体の体積200 mLに対する液体ハンドソープの体積の割合（％）を60％にすればよいので、入れる液体ハンドソープの体積は $200 \times 0.6 = 120$ （mL）、水の体積は $200 - 120 = 80$ （mL）となります。

〔問題 2〕

(例) ノズルをおすと、容器内の液体があみ目に広がり、ノズル内のおし出された空気によって液体があみ目からあわとなって出てくる。

(例) ノズルをおすと、容器内の液体があみ目によって、小さなシャボン玉が集まった状態で出てくる。

【解 説】

資料 1・2 より、ノズルをおすと、ボール A の栓が開き容器内の液体が押し上げられて、液体があみ目につくことがわかります。あわになって出るハンドソープは、液体のまま出るハンドソープに比べて水っぽいので、液体があみ目に広がります。また、資料 2 より、このとき同時に、C の部分がおし下げられ、空気室の中の空気があみ目を通りながらノズルの中に送りこまれることがわかります。このノズルの中に送りこまれた空気が液体と混ざり、あみ目を通るときにあわができ、ノズルから出ていきます。